

氏 名	伊豆原 宗人
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第550号
学位授与年月日	令和3年1月13日
審 査 委 員	主査 教授 藤谷 昌司
	副査 教授 長井 篤
	副査 教授 鈴木 律朗

論文審査の結果の要旨

せん妄は夜間に悪化する特徴を持つ意識障害の一つであり、死亡リスクの増加とも関連する。従来の不眠症治療薬はせん妄を惹起するという問題があったが、近年承認された、従来の不眠症治療薬とは異なる作用機序の新規治療薬スボレキサン（オレキシン受容体アンタゴニスト）が、二重盲検化試験によりせん妄予防効果を示した。しかし、臨床試験という限定された対象集団での検証のみであり、臨床場面、特にintensive care unit (ICU)での効果は不明であった。本研究では、島根大学附属病院ICU全入室患者のうち、3日以上ICUに滞在し、3歳以上、せん妄のない日が特定できるという条件を満たした者を対象とし、後方視的にスボレキサンのせん妄予防効果を検討した。699名が対象となり、せん妄の発症はスボレキサン服用群84人中15人、非服用群615人中199人であった。22の共変数を含めて行ったCOX回帰分析から、スボレキサンは有意にせん妄発症を抑制することが示された（ハザード比0.473, 95%信頼区間0.268–0.832, $P=0.009$ ）。本研究では様々な対象者が含まれる実臨床のデータにおいて先行研究の二重盲検試験の結果と一致しており、スボレキサンを用いたICUでの積極的な不眠治療がせん妄予防につながるという知見である。臨床上極めて重要な研究であり、学位授与に値すると判断した。